

平成29年度スポーツ庁委託事業  
「Specialプロジェクト2020体制整備事業」

# 徳島県「Specialプロジェクト2020」 体制整備事業 成果報告書

徳島県教育委員会

## はじめに

2020年東京パラリンピック競技大会を成功に導くためには、選手の強化のみならず、多くの障がい者がスポーツを楽しめる環境を整備することにより、障がい者スポーツの裾野を広げていくことが重要であるといわれています。

徳島県においては、障がい者スポーツの裾野の拡大に向けて、平成27年度からの「地域における障がい者スポーツ普及促進事業」の委託を受け、生徒の障がい特性に応じたニュースポーツの実践交流、障がい者スポーツ団体の関係者を講師とした実技講習の実施、さらには地域住民と一緒にスポーツを楽しむ機会の実践研究を通じ、特別支援学校における障がい者スポーツの取組と地域における障がいのある児童生徒への理解が深まりつつあります。

また、これまで特別支援学校では、児童生徒一人一人の個性を活かした美術教育及び作品作りが進められ、学校行事等の機会に合わせて作品展示等が行われてきました。さらに、本県では、平成29年度に「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」を制定し、その施行に合わせて、障がい者の芸術・文化の振興のため、「特別支援学校生徒等による記念芸術作品制作事業」が実施されるなど、障がいのある児童生徒に対する芸術・文化活動を振興する気運が高まりつつあります。

こうした中、特別支援学校におけるスポーツ活動と芸術・文化活動のさらなる充実を図り、将来特別支援学校が地域の障がい者のスポーツ活動と芸術・文化活動の拠点の役割を担うことができるよう、今年度新たにスポーツ庁から「Special プロジェクト 2020」体制整備事業の委託を受け、徳島県「Special プロジェクト 2020」体制整備事業を実施いたしました。

県内の全ての特別支援学校の協力を得て活動に取り組むとともに、徳島県障がい者スポーツ協会、デジタルアート専門家、経済関係者、教育関係有識者、県障がい福祉課等の参画により実行委員会を組織し、活動内容の検討を行いました。

本報告書は、上記内容を実践した成果を検証するために、作成したものです。多くの方々にご覧いただき、忌憚のない御意見、御助言を賜れば幸いです。

最後になりますが、本事業の実践にあたり、御指導、御協力をいただいた、関係機関の方々や各特別支援学校の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

平成30年3月

平成29年度 徳島県「Specialプロジェクト2020」体制整備事業成果報告書（目次）

徳島県「Specialプロジェクト2020」体制整備事業

1	事業の目的・概要	2
2	県立特別支援学校の概況	3
3	各特別支援学校における運動会・文化祭一覧	4

I 実行委員会

1	実行委員会概要（組織図・委員名簿）	6
2	検討状況	
	第1回実行委員会	7
	第2回実行委員会	8
	第3回実行委員会	9

II 活動報告

1	スポーツ活動	
	(1) ボッチャ伝達講習	12
	(2) 各特別支援学校におけるボッチャの実践	13
2	芸術・文化活動	
	(1) 専門家との連携とアート作品制作	16
	(2) 四国霊場札所での生徒作品展示及び配付	22
	(3) アート展の開催	24
3	活動の成果と課題	28

# 徳島県「Special プロジェクト 2020」 体制整備事業

## 1 事業の目的・概要

特別支援学校が、地域の障がい者の芸術・文化活動及びスポーツ活動の拠点となり、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に開催される全国的な祭典の支援体制を整備することを目的として、本事業を推進する。そのために、外部専門家との連携によるデジタルアート等の作品制作を通して児童生徒の芸術的才能の開花を促すとともに、地域の文化遺産である四国霊場札所での作品展示を含めた「児童生徒のアート作品展」を開催し、障がい者の芸術・文化活動に対する特別支援学校の機能を強化する。また、国立特別支援教育総合研究所が実施する「特別支援学校「体育・スポーツ」実践指導者協議会」への派遣及び伝達講習を通して、特別支援学校を拠点とした障がい者の体育・スポーツ活動の充実を図る。さらに、芸術・文化及び障がい者スポーツ関係の専門家、経済団体等の委員により構成する体制整備事業実行委員会において本事業の評価と改善を行うとともに、事業終了後にも特別支援学校が地域の障がい者の芸術・文化活動及びスポーツ活動の拠点の役割を担う方策について検討を行う。

# Special プロジェクト 2020

～障害の有無にかかわらず、すべての人が笑顔になる祭典～

### 趣旨等

●2020年からの新たな特別支援教育(学習指導要領改訂)を契機に、**全国の特別支援学校で、スポーツ・文化・教育活動の全国的な祭典を開催**

- ・「ほんもの」のスポーツ・芸術に触れ感動を共有する機会
- ・障害の有無等を超えて誰もが心に触れ合う機会
- ・地域住民の主体的な参画

### 事業内容

#### ①祭典の企画立案等

国レベルの中央実行委員会を開催し、事業内容を具体化するとともに、関係機関とのネットワークを構築し、ロゴマーク作成やプロモーション等を行う。

#### ②各地での祭典開催のための体制整備及び情報収集

各都道府県・地域において地域実行委員会を開催し、域内の関係機関のネットワークを構築するとともに、特別支援学校で行われる運動会、文化祭に関する情報収集を行う。

#### ③祭典に向けたモデル事業の実施

全国的な祭典の開催に向けた具体的な取組の先進事例を蓄積するため、モデル事業を実施する。

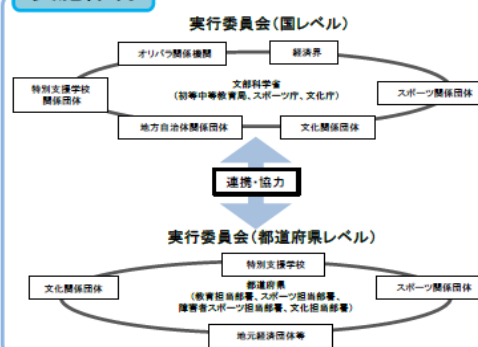
#### ④特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業の実施

特別支援学校等における体育・運動部活動等を充実するとともに、特別支援学校等を拠点とした障害者の地域スポーツクラブの設立を支援する。

#### ⑤特別支援学校を対象とした全国的なスポーツ・文化大会の開催支援

全国の特別支援学校のスポーツ・文化活動の充実を図るため、特別支援学校のスポーツ・文化活動の成果を披露するための全国大会の開催を支援する。

### 実施体制



### 効果

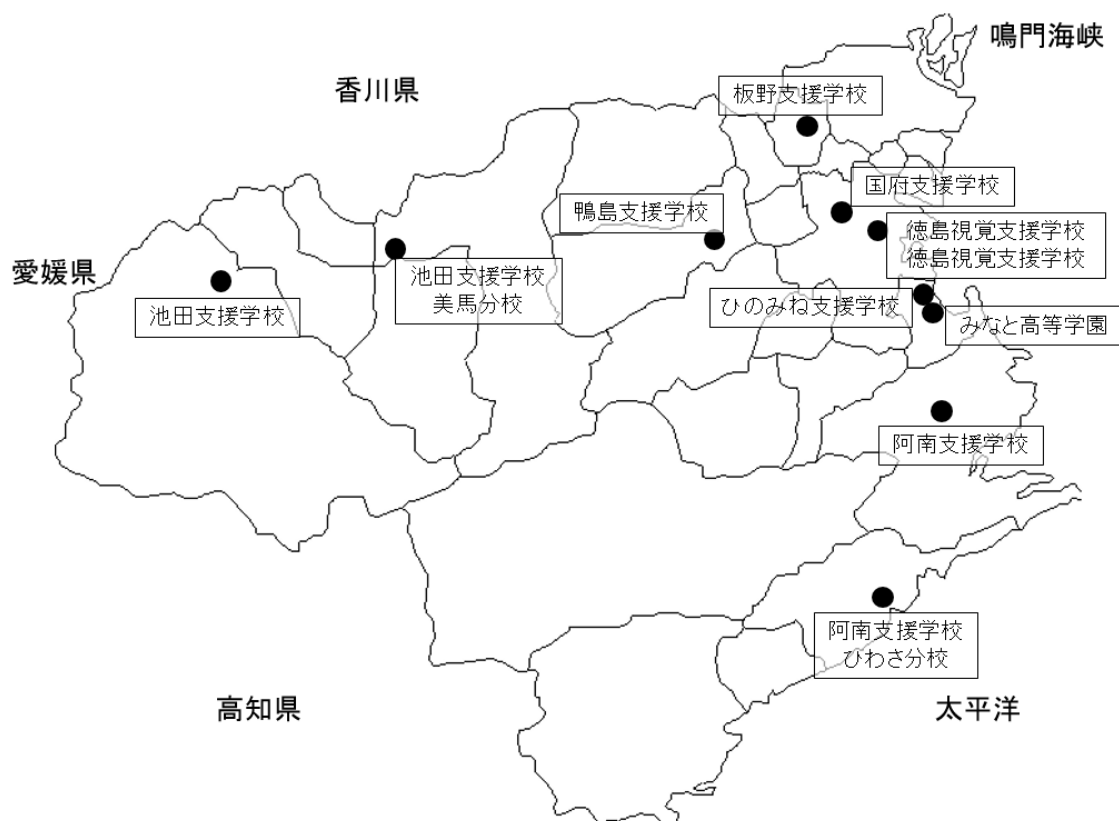
- ・地域の誰にでも開かれた次世代の「共生学校」を創造
- ・東京大会のレガシーとして、障害の有無や年齢・性別を超えた、地域の共生社会の拠点づくり

## 2 県立特別支援学校の概況

徳島県内には、県立の特別支援学校が11校設置されており、概要は次のとおりである。

(H29.5.1 現在)

	学校名	所在地	学部 生徒数	障がい種
1	徳島視覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高専 23名	視覚障がい
2	徳島聴覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高専 42名	聴覚障がい
3	板野支援学校	板野郡板野町大寺	小中高 202名	肢体不自由, 病弱, 知的障がい
4	国府支援学校	徳島市国府町矢野	小中高 276名	知的障がい
5	鴨島支援学校	吉野川市鴨島町	小中高 23名	肢体不自由, 病弱
6	ひのみね支援学校	小松島市中田町	小中高 51名	肢体不自由
7	阿南支援学校	阿南市上大野町	小中高 140名	知的障がい
8	阿南支援学校ひわさ分校	海部郡美波町	小中高 16名	知的障がい
9	池田支援学校	三好市池田町	小中高 82名	知的障がい
10	池田支援学校美馬分校	美馬市美馬町	高 33名	知的障がい
11	みなと高等学園	小松島市中田町	高 92名	知的障がい, 病弱



### 3 各特別支援学校における運動会・文化祭一覧

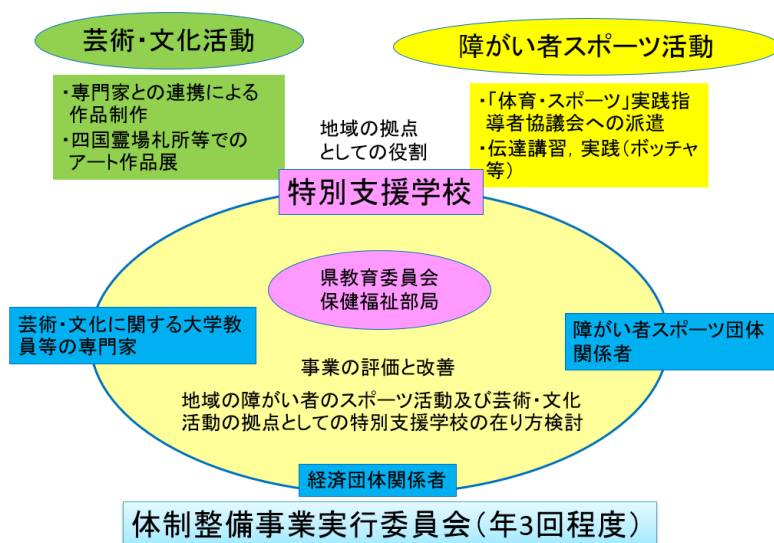
県立特別支援学校における、運動会・文化祭の取り組み状況は、次のとおりである。(H29)

	運動会・体育祭(期日・特色)	文化祭(期日, テーマ, 交流・連携等の特色)
徳島視覚支援学校	6月3日(土) 大学生と競技	11月18日(土) 幼小中高合同で開催, 文化祭前に徳島聴覚支援学校の高等部とともに学校周辺の清掃実施
徳島聴覚支援学校	5月20日(土)	10月15日(日) 「smile みんなの笑顔をひとつに」 手話の学習で交流している城南高生徒来校
板野支援学校	10月7日(土) 板野高生徒来校, パン販売(施設)	11月26日(日) 「空前絶後の板野支援 超絶怒涛のフェスティバル」交流校の板野高, 鳴門高生徒来校 (表現の部, 即売等手伝い)
国府支援学校	小中 10月7日(土), 高 10月8日(日)	11月25日(土) 「国府オブ・キングダム～無限の輝き 金メダル!」 作業所との連携によるバザー, 国府中の作品展示
鴨島支援学校	6月18日(日) 文化祭と同テーマ	11月23日(木・祝) 「Let's challenge!!」和太鼓の演奏, 各学部の交流校からのボランティアによる即売
ひのみね支援学校	10月7日(土)	11月23日(木・祝) 「ひのみね 100%!!」 地域の小学校2校による金管バンド演奏, 小松島西高によるアイスクリーム販売, 各学部で交流校の作品展示
阿南支援学校	9月30日(土) 交流校児童生徒来校	12月2日(土) 「絆を深める学校祭」 交流校の大野小, 加茂谷中児童生徒来校
阿南支援学校 ひわさ分校	10月1日(日) 日和佐小, 海部校, 新野高児童生徒来校	11月18日(土) 「みんなのえがおは35おく かがやけ☆ひわさ分校」 交流校の日和佐小, 海部校来校
池田支援学校	10月21日(土) 地域婦人会が 箸蔵音頭披露	12月9日(土) 「空前絶後の心と力をひとつに合わせる池文祭」 三好市保健所との連携による歯みがき指導
池田支援学校 美馬分校	6月4日(日)	10月28日(土) 「秋祭り 美馬分祭だよ 全員集合!!」 ボランティアとして脇町高来校, 表現の部出演(脇町高書道部, 美馬中音楽部, 阿波踊り白水連, 四国大ジャグリング部, 日本舞踊の和の会), 5つの施設からバザーの協力
みなと高等学園	10月3日(火) MKG スポーツの日	1月20日(土) 「一期一会(いちごいちえ)～出会いに感謝」 表現の部は希望する生徒(個人・グループ・クラス)のエントリー制, 施設によるうどん販売

# I 実行委員会



## 1 事業実施体制



## 2 委員会の目的

スポーツ庁の委託事業「Special プロジェクト 2020」体制整備事業を実施するにあたり、徳島県「Special プロジェクト 2020」体制整備事業実行委員会を設置し、特別支援学校が地域の障がい者の芸術・文化活動及びスポーツ活動の拠点の役割を担う方策について検討するとともに、本事業の評価を行う。

## 3 検討事項

- ・徳島県内のスポーツ・文化関係者（行政，学校，スポーツ団体，文化団体，経済団体，有識者等）から構成し，徳島県内の関係機関のネットワークを構築する。
- ・地域の障がい者スポーツ活動及び芸術・文化活動の拠点としての特別支援学校の在り方について検討する。

## 4 委員名簿（敬称略）

区分	所属・職名	氏名	備考
学識経験者	徳島文理大学人間生活学部児童学科准教授	富樫 敏彦	委員長
芸術専門家	四国大学生生活科学部生活科学科 デザインコース講師	上野 昇	
スポーツ	徳島県障がい者スポーツ協会事務局長	岡下 和義	
経済団体	株式会社キョーエイ人事部長	富田 圭司	
行政	徳島県保健福祉部障がい福祉課 障がい者 活躍推進担当室長	佐金 由美	
	徳島県教育委員会特別支援教育課 課長	榊 浩一	

(第1回実行委員会)

日時 平成29年7月31日(月) 14:00～15:00

場所 徳島県庁 1105会議室

出席委員 6名

概要

- ・ 委員長選任
- ・ 事務局による事業の概要説明
- ・ ボッチャの紹介及び実演

(委員からの主な意見等)

○文化・芸術の振興

- ・ アート作品の制作にあたっては、子どもの障がいの状態によって違いがある。担任の先生が生徒の状態を一番把握しているので、学校との協力関係が重要。
- ・ 障がい福祉部局では「障がい者アーティストの卵展」の開催を予定しているので、連携を図り、「アート作品展」を同時期に開催することで、相乗効果があがる。
- ・ 生徒の作品は絵を描いたり、立体作品といってもそんなに種類の豊富ではなかったが、専門家の指導によるデジタルアートの新たな取り組みを行うことで幅が広がる。
- ・ 作品については、地域の中で多くの方に見ていただくために、展示の場所としてスーパーマーケットのスペースの活用も検討が可能。

○スポーツの振興

- ・ ボッチャについて、徳島県障がい者スポーツ協会では、特定の障がい者だけでなく健常者も交じって、みんなで出来るスポーツとして取り組んでいるところ。秋には県大会も開催する予定。
- ・ 特別支援学校の中ではまだ普及していない。国の指導者養成講座へ教員を派遣し、伝達講習をすることで各学校、特に肢体不自由の子どもが参加出来る体制を徐々に作っていきたいが、用具が高額なことから、貸し出しや指導も含め、障がい者スポーツ協会にも協力をお願いしたい。

○四国霊場札所でのお接待活動における作品展示

- ・ 今年度から県内の特別支援学校では四国霊場札所で、自分たちの手作り作品をしおりにして渡すなど、お遍路さんへのお接待活動を行っている。
- ・ しおりなど薄いものなら短時間で作成できるので、札所に3Dプリンタを置いて、その場で渡すことも可能。

(第2回実行委員会)

日時 平成29年12月18日(月) 15:30~16:30

場所 徳島県庁 402会議室

出席委員 富樫委員長ほか5名

概要

- ・事務局による事業の進捗状況説明
- ・意見交換

(委員からの主な意見等)

○スポーツの振興

- ・ ボッチャの伝達講習では、大勢の先生方が参加し、ボッチャのルールや楽しさを知ってもらう良い機会になった。
- ・ 障がい福祉部局で2年前から取り組んでいる、「地域における障がい者スポーツ普及促進事業」では、特別支援教育課と連携したり、スポーツ団体と連携したりするなど、上手くいっている。
- ・ 平成29年7月に「徳島県障がい者スポーツ協会」が設立され、みんなが一致団結してやろうという雰囲気になっている。

○文化・芸術の振興

- ・ 障がい児への指導は初めての経験でもあったが、思っていた以上に児童・生徒が楽しみながら、集中力をもって取り組んでおり、表情がいつもと違うとの声も聞かれた。
- ・ 上手く進めるためには、先生方との事前の打合せでどれだけ理解いただけるかということも重要で、目標や目指すもの、手順等を詰めることができれば、授業がスムーズに進む。
- ・ スーパーの店舗でもアート展のポスター掲示のほか、スペースのある店舗では、作品展を店舗で実施することにも協力を考えていきたい。
- ・ 地域のお店で、子ども達の作品を間近に見て頂く取り組みが広がれば、障がい者理解へもつながっていくのではないかと。
- ・ アート作品での専門家との連携にあたって、次の段階としては、対象児童を広げていくというより、深めていって、子ども達が創造性を発揮し、自分の色を出すことが出来るようになればと思う。

○その他

- ・ 徳島聴覚支援学校の卓球部の子どもについては、身体の動きは大丈夫なので大学の卓球部員がボランティアで指導することで、腕を磨く取り組みを1月頃からスタートさせる予定。
- ・ インテリアデザインの勉強で徳島聴覚支援学校の生徒が大学へ進学することもあるが、日

本の伝統文化や美を学ぶことがインテリアデザインにもよい影響があるとのことで、生け花の先生がボランティアで教えていただける話もある。出来上がった作品を今月の花といった形で学校近くのスーパーに飾って頂けたらと考えている。

- ・ 大学生と協働作業できないかとの声を先生方からよく聞かれるが、特別支援学校から大学へ出向いてもらい一緒に授業を受けていただくことは可能。逆に、大学生が特別支援学校を訪ねて、活動に参加することについては、整理が必要。
- ・ 3Dプリンタを用いた先進的な芸術文化と日本の伝統文化、障がいがある重度の方から身体が十分に動く方まで、様々な取り組みが広がればと思う。
- ・ 文化・芸術にしる、スポーツにしる、特別支援学校を卒業して大人になっても続けていけるようにつなげればと思う。
- ・ 平成28年4月に「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」が施行され、条例の中にも障がいがある人の生涯学習の推進が規定されている。
- ・ 2020年だけでなくもっと先を見据えて活動を広げていってほしい。

#### (第3回実行委員会)

日時 平成30年3月13日(火) 13:00~14:00

場所 徳島県庁 707会議室

出席委員 富樫委員長ほか4名

#### 概要

- ・ 事業の実施状況について
- ・ 平成29年度取り組みの評価
- ・ 今後の取り組みについて
- ・ 意見交換

#### (委員からの主な意見等)

##### ○文化・芸術の振興

- ・ アート展では幅広い作品展示がされていたが、デジタルアートが入ったことで、更に作品の幅が広がった。
- ・ 各特別支援学校でデジタルアートに取り組める環境を整えることが必要。
- ・ 特別支援学校のことを知ってもらうために、「きらめきアート展」では県内全ての特別支援学校に参加してもらい、3Dアートやエシカル消費につながるような、新しい取組も取り入れ、評判も良かった。
- ・ 今年の3Dアートの取組では、特別支援学校の生徒が大学へ行って、たくさんのことを学び、可能性を広げることにつながったことは大きな収穫。既存の特別支援学校での作品づく

りとは違う手法を、次年度も提供していただきたい。

- ・ 児童、生徒に大学に来てもらい、学生との交流をどのように増やすのか、また、共同で何か新しいチャレンジが出来ないものか、面白さも視点に、具体的方策を考えていきたい。

#### ○スポーツの振興

- ・ 徳島視覚支援学校では音の出るボールを使ってボッチャに取り組んでいる。どんなハンディがある方も、工夫次第でいろいろなスポーツに取り組むことが出来る。
- ・ 徳島聴覚支援学校において、卓球部に大学生が外部指導者として協力したり、生け花の先生に学校で指導を受けたりするなど、外部人材の活用は大きな視点。
- ・ スポーツ活動の場として、総合型地域スポーツクラブの活用が進みつつあるが、選択肢は多い方がよい。特別支援学校が受け皿になる方法を作っていくことが大事。

#### ○その他

- ・ 卒業後、福祉施設を利用している人は、余暇活動も行われているが、一般就労した人は、なかなか自分で余暇活動を見つけることは困難。
- ・ 障がいのために、カルチャースクールに通えないなど、障がいのある方の生涯学習は狭められている。特別支援学校が、生涯学習の拠点になるとスポーツ活動も芸術活動もしやすくなる。
- ・ 卒業してからも、特別支援学校に来たらこんなことが出来るというメニューを多く持つために、大学をはじめ、いろんな方々の力を借りて、地域の中の特別支援学校としてやっていく必要がある。



## II 活動報告

# 1 スポーツ活動（特別支援学校「体育・スポーツ」実践指導者の育成）

## （1）ボッチャ伝達講習

- 1 ねらい 特別支援学校でのスポーツ活動の充実をめざし、ボッチャの普及・促進を図る。
- 2 日時 平成29年10月18日（水）午後1時30分から午後4時まで
- 3 場所 徳島県立ひのみね支援学校 体育館
- 4 参加者 10名
- 5 内容

### 伝達講習1（研修報告）

国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校「体育・スポーツ」実践指導者協議会」に参加した教員から、障がい者スポーツの現状や障がい者スポーツの振興に係る取り組みについて報告があった。また動画等によるボッチャのわかりやすい紹介がなされた。



### 伝達講習2（ボッチャ実践）

徳島県障がい者スポーツ協会の岡下事務局長からボッチャのルールを説明いただき、参加者全員でボッチャを実践した。赤チームと青チームに分かれて何度もゲームを行うことで、ルールを理解し、作戦を考えながらボールを投げたりゲームを楽しんだりすることができた。

また、実践指導者協議会参加教員からは、学校におけるボッチャの導入として、短い距離でボールを投げたり、的の見立てた紙に向かってボールを投げたりする方法の紹介があり、参加者で取り組んだ。



ボールの投げ方練習



赤・青チームに分かれて  
ゲーム



得点の数え方練習



的（白い紙）に向かって  
投げる練習

参加者アンケートの意見として、ボッチャは初めての取り組みという人が多かったが、ルール等が理解しやすく、楽しくゲームを実践できたとの声もみられるなど、概ね好評であり、伝達講習を契機に、各特別支援学校でのボッチャの実践へつなげた。

(2) 各特別支援学校におけるボッチャの実践

1 実践内容

(視覚障がい、聴覚障がいの学校における実践)

徳島視覚支援学校

時期	対象	実施内容
1月	寄宿舎 生徒 5名	①ボッチャについての簡単な説明, ②チーム分け, ③画用紙を狙った練習(2回), ④団体戦 3セットマッチ, ⑤結果発表・振り返り 視覚活用できない生徒のために, ジャックボールを鈴の入った音の出るボールに変更し, チーム内でジャックボールの方向と距離を言葉で伝えたり, 鈴で知らせたりできるようにするなど工夫を加えた。

徳島聴覚支援学校

時期	対象	実施内容
11月	重複障 がい児 童生徒 5名	県障がい者スポーツ協会から講師派遣と用具貸し出しを受け, 児童生徒にルール説明等を行いながら競技を行った。初めはボールを転がす練習をし, 手玉をジャックボールに近づけるといふ基本的なルールを学習した後, 対戦形式で実践した。競技の趣旨に沿って, 十分楽しめた。



(肢体不自由の学校における実践)

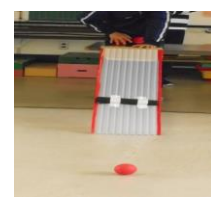
板野支援学校

時期	対象	実施内容
10月 12月	高等部 5名	ボッチャの説明を行い, ①スローの練習のあと, チームに分かれて試合, ②手作りの器具を使用して試合, という流れで実践した。

①



②



鳴島支援学校

時期	対象	実施内容
10月～ 12月	中・ 高等部 3名	体育の授業で, 生徒の障がい実態に応じて細かいルールは省いて簡素化し, 自力での投球が難しい生徒は, 手作りのスロープを作成して, 傾斜角度や方向を調整しながら実施した。





ひのみね支援学校

時期	対象	実施内容
11月～ 1月	高等部 5名	ルール説明とボッチャのビデオ鑑賞からスタートし、基本練習を3時間程度行った。その後、技能に応じたルールに簡略化したゲームを導入し、徐々に公式ルールに近づけて行った。1月からは、基本練習から個人戦、団体戦の流れで戦術等も考慮しながらの授業を行った。

(知的障がいの学校における実践)

国府支援学校

時期	対象	実施内容
12月	中学部 6名	準備体操から始め、ボールの持ち方、投げ方の練習や新聞紙の上にボールが止まるようにする力加減の練習、ペットボトルをねらう練習を行ったあと、ゲームを2回行った。



阿南支援学校

時期	対象	実施内容
12月	中・ 高等部 21名	放課後に中学部・高等部に分かれてボッチャを実施し、途中で中学部の生徒と高等部の生徒で交流を兼ねて2回ずつゲームも行った。



ボッチャのルール等の資料は、PDFによりペーパーレス化を図り、職員間で情報共有を行った。

池田支援学校

時期	対象	実施内容
11月～ 1月	高等部 22名	体育の時間に実施した。生徒の実態に応じて、ボッチャの公式な道具に加えてバスケットボール、玉入れ用の玉等を使用してルールが定着できるように3グループに分かれて授業を実施した。



池田支援学校美馬分校

時期	対象	実施内容
2月	19名	徳島県障がい者スポーツ協会より、講師を招聘し指導を受けた。初めに投球方法を教えていただき、2人1組で投げる練習をした。その後、実際にゲームをしながらルール等の確認を行った。 

(知的障がい，病弱の学校における実践)

みなと高等学園

時期	対象	実施内容
12月	部活動の球技部員と陸上部員16名	徳島県障がい者スポーツ協会より講師を招聘し、競技説明や指導を受けた。準備運動から始め、投球方法を教えていただきながらボールを投げる練習を行った。その後、交代しながら何度もゲームを繰り返すことでルールの理解が進み、十分楽しめた。

2 成果と課題等

(成果)

- ・ ルールがわかりやすく、親しみやすいため、ゲームを楽しむことができた。
- ・ 運動能力に左右されず、投げる力の弱い生徒、運動が苦手な生徒も楽しむことができた。
- ・ 創意工夫や戦術について生徒同士で話し合ったり、応援したりする姿が見られた。

(課題)

- ・ 今後の普及のためには、各校に道具やコート等の準備等の環境整備が必要である。
- ・ 生徒の発達段階により、話し合いや理解が難しいと、投げるだけになりがちである。
- ・ 指導する側にも知識や技術が必要である。
- ・ 毎年、教員に向けた定期的な講習会を行い、ボッチャというスポーツをたくさんの方が体験することが必要である。

## 2 芸術・文化活動（専門家との連携とアート作品制作）

### （1）専門家との連携とアート作品制作

- 1 ねらい 外部専門家との連携によるデジタルアート等の作品制作を通して児童生徒の芸術的才能の開花を促す。
- 2 実施校 徳島聴覚支援学校、板野支援学校、鴨島支援学校、みなと高等学園、ひのみね支援学校
- 3 講師 四国大学 生活科学部 生活科学科 デザインコース  
講師 上野 昇 氏
- 4 期間 平成29年9月から平成30年2月まで
- 5 場所 各特別支援学校及び四国大学
- 6 活動状況

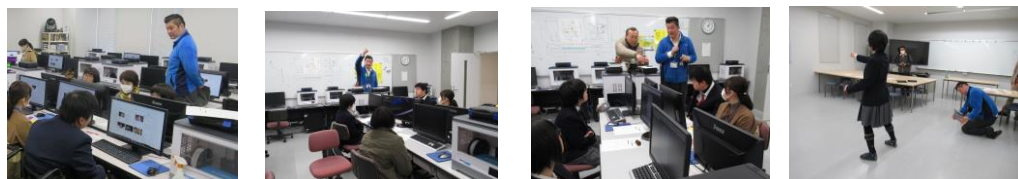
#### 徳島聴覚支援学校

時期	平成29年11月8日～12月13日
場所	徳島聴覚支援学校
対象	小学部16名
内容	<p>始めに3Dプリンタやスキャナー付きのiPadの使い方を説明。児童はすぐに使い方を覚え、教員をモデルにしたミニチュア人形が出来上がっていく様子に「すごい！」「そっくり！」と驚いていた。「We Love 徳島」をテーマに自分の好きな徳島の特産物を粘土で表現し、3Dプリンタによる自分達のミニチュア人形を加え、デジタルとアナログのコラボ作品を作った。重複学級では鳴門金時の芋と葉を粘土で表現した。1年生は鳴門金時とももいちご、すだちを、2年生は好きな特産物、4、5年生は徳島の風景のパネルに、粘土で食べ物や人物などを、6年生は粘土、パネルともに徳島の特産物を表現した。</p> <p>友達の作品を見て、それぞれ感想を話し合ったり、評価したりすることができた。</p>






#### 板野支援学校





時期	① 1月10日 ②1月31日 ③2月7日
場所	①四国大学 ②③板野支援学校
対象	高等部1年 5名
内容	<p>3D スキャンと液晶タブレットを体験し、モビールを制作した。</p>




鴨島支援学校


時期	平成29年12月6日, 12月13日
場所	四国大学
対象	高等部 1年生1名 2年生1名 3年生1名 計4名
内容	<p>大学のキャンパスで、普段の授業では経験が困難な創作活動を体験する。            (3Dプリンタを使用した制作)            「かもじま's ワールドツアープロジェクト」            プロジェクターの前に生徒のフィギュア4体を並べ、スクリーンに映し出した世界各地約20カ所の場面に模型の影を重ねて、4人が世界中を旅している様子を表現する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

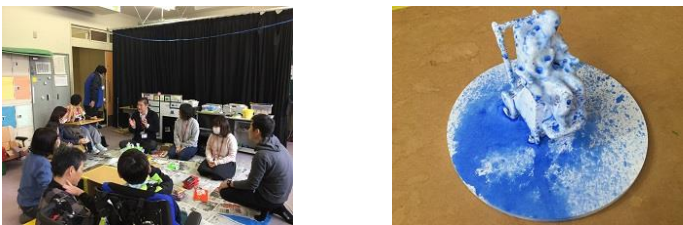
みなと高等学園

時期	平成29年10月16日～平成30年1月20日
場所	四国大学, みなと高等学園
対象	1年生6名
内容	<p>四国大学生活科学部生との連携により、みなと高等学園公式マスコットキャラクターを着ぐるみとして製作</p> <p>10月16日 オリエンテーション, 「立体表現」授業受講</p> <p>11月27日 ポリエチレンフォーム加工, 「立体表現」授業受講</p> <p>12月18日 スポンジウレタン加工, 「立体表現」授業受講</p> <p>1月20日 みなと高等学園文化祭 発表披露 大学生による3Dフィギュア制作 ワークショップの開催</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;">     </div> <p style="text-align: right;">マスコットキャラクター “みなっち”</p>



ひのみね支援学校（実施場所はいずれもひのみね支援学校）



対象	小学部1組（小学部4,6年） 児童4名
時期	平成29年12月20日
内容	<p>「LEDライトアート」</p> <p>① 光のボール（LEDライト）を児童の頭や手に着けたり，ボールを握ったりして準備する。</p> <p>②室内を暗くし，クリスマスソングに合わせて数十秒間赴くままに身体を動かす。</p> <p>② 光の軌跡をデジタルカメラで長時間露光撮影し，光のパフォーマンスを作品にした。</p>
	


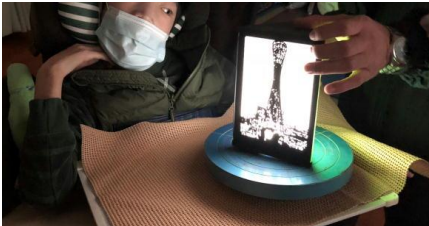
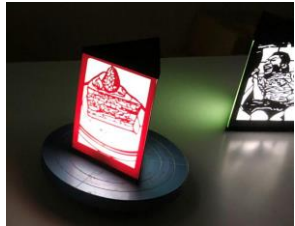
対象	小学部2組（小学部4,5年） 児童4名
時期	平成29年11月2日，平成30年1月22日
内容	<p>①3Dアートって何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3Dアートの作品の見本を見て，どんな作品を作るのか考えた。</li> </ul> <p>②自分のフィギュア人形を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィギュア人形を作るための撮影をiPadで行った。</li> <li>・3Dプリントされたものを，自分の好きな色で着色した。</li> </ul>
	

対象	小学部3・4組（小学部2,3,4,6年） 児童6名
時期	平成29年11月2日，11月30日
内容	<p>① 講師を招き，3Dスキャンカメラ（iPad）を使って車椅子や台に座った児童の姿を3Dスキャンした。</p> <p>② 講師と大学生2名が来校して，まず，みんなでできあがったフィギュアを見たり触れたりした。そして，アクリル絵の具を使ってフィギュアに色づけを行った。</p>
	



対象	小学部7・8組 (小学部4,5,6年) 児童3名
時期	平成29年11月29日
内容	<p>「図画工作作品(写真)と3Dプリンタで、揺れる飾り物を作ろう！」</p> <p>※今まで制作した図工作品を生かして、デジタルアートとのコラボで、揺れる飾り物(キーホルダー)を制作した。</p>
	 

対象	小学部5・6組 (小学部1,2,3年) 児童5名
時期	平成29年10月25日
内容	<p>「手形足形アレンジアート」</p> <p>①児童の手・足の型取りを実施した。教員の補助により、手足の輪郭を液晶タブレットでデジタル入力し、その輪郭線を講師が3Dプリンタで厚みを持たせて出力した。</p> <p>②3Dプリンタの出力デモを実施した。</p>
	 

対象	中学部2組 (中学部3年) 生徒3名
時期	平成29年11月30日, 12月20日, 平成30年2月7日
内容	<p>①「中学部3年間の思い出」や「僕・私の好きな物」の写真を3枚選び、3Dプリンタで版画のように印刷し、それを組み立ててランプシェード作りを行った。</p>
	   <p>②3Dカメラで、ファシリテーションボールや教員と一緒に活動している所を撮影し、3Dプリンタでフィギュアを作成してもらった。</p>

## 7 児童生徒の感想等及び成果と課題

### (児童生徒の感想)

- ・ 四国大生の方々が優しく教えてくれました。とても楽しくできました。(講義の最終回では)今回で終わりというのは少し残念です。
- ・ 3Dプリンタの印刷技術の凄さや印刷を行うまでの設定の方法を学んで、3Dプリンタは奥が深いと感じました。そして、この体験をいかして将来自宅でも使いたいと思いました。
- ・ 重度の生徒は、3Dプリントされた作品を手に取り、握りしめていた。(気に入ったようだ。)

### (成果)

- ・ デジタル機器やデジタルアートへの関心が高まった。体験したことのない機械で自分そっくりのフィギュアを制作することができて嬉しそうだった。
- ・ 3Dプリントによる半立体の作品なので、手で触れながら、形状を確認することができた。
- ・ 自分の動きが軌跡となり、その場で画面で見ることができたこと、それが作品となったことに児童はとても驚き、感動していた。
- ・ 学校以外の教員(大人)の方との触れ合いが児童にとって新鮮だった。
- ・ 大学という雰囲気味わいながら、新鮮な環境で初めての機材を使用することができ、生徒たちはいきいきと、またいつも以上に集中して授業に取り組むことができた。
- ・ 大学生との交流により、コミュニケーション等、日常にない絶好の機会を得られた。
- ・ 「ものづくり」を通して多くの人や社会と関わっていくことを学んだことにより、学校での作品制作や技術習得により熱心に取り組む姿勢が見られるようになった。

### (課題)

- ・ どのようなことができるのか、児童の力をどのように引き出すのか、実施の際には、教員と専門家の詳細な打ち合わせが必要である。
- ・ (大学で活動を行う場合)実施時期の気候や体調管理、移動に要する時間等に考慮が必要である。
- ・ 児童の意識をより高めるため、活動を増やし3Dアートに触れる機会を多くする必要がある。

各特別支援学校では、地域との連携を図り、役場や銀行、量販店、喫茶店等において、また、交流校の文化祭参加等により、それぞれ独自のアート展の取り組みを行っている。

## 地域におけるアート展の取り組み（池田支援学校）

- 名称 「池田支援学校作品展」
- 時期 7月12日(水)／2月6日(火)
- 場所 工房ヴィレッジ，三好市中央図書館
- 内容 作品搬入と作品展見学（7月は3年生，2月は2年生）
- （工房ヴィレッジ）本校の小中高の児童生徒が作った作品を搬入
- ・作品がきれいに見えるように考えながら並べることができた。
  - ・7月は，工房の見学も行い，搬入後は販売されているパンを購入した。
- （三好市中央図書館）作品展の見学
- ・「私の」「〇〇さんの」と，自分や友だちが作った作品をうれしそうに鑑賞していた。



- 成果
- ・工房ヴィレッジには，一年間を通して生徒の作品を置き，本校の児童生徒が作業学習や学級で作った作品を見て楽しみにしている。
  - ・本校の生徒にとっては，作った作品を喜んでもらえることで，作業学習への意欲を高めることができた。
- 課題
- ・実際に作品を見に来てくれた人との交流がない。直接，声や感想を聞くことができれば，もっと意欲的に活動できるのではないか。

## TOPICS



平成30年1月29日，本事業を委託いただいているスポーツ庁の有田係長と木暮氏が，徳島県 Special プロジェクト 2020 体制整備事業で実践活動を行っているひのみね支援学校を視察に訪れ，生徒達がボッチャに取り組む様子や，アート展への出品に向け作成中の3D作品等を興味深くご覧いただきました。

また，校長室に掲示されていた鈴木大地スポーツ庁長官の記事の話で盛り上がり，視察の報告を受けた鈴木長官も，非常に喜ばれていたとお返事を頂き，生徒達が作ったコースターを手にした写真も送って下さるなど，関係者一同，心温まる出来事となりました。



(2) 四国八十八ヶ所霊場札所でのお接待活動における作品の展示と配布

1 目的

四国八十八ヶ所霊場札所でのお接待活動において、特別支援学校の生徒が授業等で身に付けた技能を生かした作品等を展示したり、お遍路さんに配布したりすることをおして、各特別支援学校の特色ある取組や生徒の豊かな表現力の向上を図るとともに、障がい者の文化・芸術分野での活躍や才能への理解推進を図った。

2 実施内容

四国八十八ヶ所霊場札所が近くにある特別支援学校3校で、次のとおり実施した。

学校名	活動場所	実施日	参加生徒数
板野支援学校	第三番札所 「金泉寺」	平成 29 年 6 月 13 日(火) 10:15～11:30	高等部 13 名
		平成 29 年 7 月 11 日(火) 10:15～11:30	高等部 8 名
		平成 29 年 9 月 19 日(火) 10:15～11:30	高等部 12 名
		平成 29 年 10 月 24 日(火) 10:15～11:30	高等部 9 名
		平成 29 年 12 月 5 日(火) 10:15～11:30	高等部 9 名
		平成 30 年 1 月 30 日(火) 10:15～11:30	高等部 8 名
		平成 30 年 2 月 27 日(火) 10:15～11:30	高等部 7 名
国府支援学校	第十四番札所 「常楽寺」	平成 29 年 10 月 25 日(水) 10:00～11:30	高等部 8 名
		平成 29 年 10 月 26 日(木) 10:00～11:30	高等部 7 名
池田支援学校 美馬分校	第八番札所 「熊谷寺」	平成 29 年 11 月 2 日(木) 10:00～12:00	高等部 8 名
		平成 30 年 3 月 8 日(木) 11:10～11:30	高等部 6 名

(1) 板野支援学校の取組

牛乳パックをリサイクルした「しおり」と生徒が描いたイラストをアイロンプリントした「手拭い」を毎回展示し、同様のものをお遍路さんへ配布した。

お接待活動を7回実施し、計203名に作品を配布した。



## (2) 国府支援学校の取組

参拝後に鑑賞できるように、生徒が授業や作業等で作成した作品を展示した。また、牛乳パックをリサイクルし、生徒がデザインして仕上げた「しおり」をお遍路さんに配布した。

お接待活動を2回実施し、計40名に作品を配布した。



## (3) 池田支援学校美馬分校の取組

生徒が縫製の技能を生かして作成したティッシュカバーやペットボトルホルダーをお遍路さんに配布した。

お接待活動を2回実施し、計35名に作品を配布した。



## 3 成果と課題

お遍路さんから「かわいいなあ」「上手にできてるね」などの感想が聞かれるなど、四国八十八ヶ所霊場札所でのお接待活動において、特別支援学校の生徒の作品を展示したり配布したりしたことは、県内外の方々に特別支援学校の取組を周知できると共に、生徒の作品に関心も持っていただく機会につながったと考える。

一方、今後の更なる取組の拡充にあたり、お接待活動を実施する特別支援学校の拡大及び学校間の連携による札所が近くにない特別支援学校の生徒が作成した作品の展示や配布が課題として挙げられる。

(3) アート展の開催

- 1 ねらい 県内の特別支援学校の幼児児童生徒のアート作品によるアート展を開催し、来場者に対して、それぞれの特別支援学校での取り組みを発信し、各学校の特色ある取り組みを紹介する場とする。
- 2 名称 とくしま特別支援学校「きらめきアート展」
- 3 参加校 県内の特別支援学校及び分校 12校（鳴門教育大学附属特別支援学校を含む）
- 4 日程 平成30年2月28日(水)～3月4日(日)
- 5 会場 徳島県立二十一世紀館 1階  
多目的活動室
- 6 展示内容 共同作品、個人作品あわせて588点  
（絵画、立体、手工芸、書道、エコ作品、デジタルアート、陶芸、木工作品、学校紹介パネル等）
- 7 入場者 710名
- 8 同時開催 生の刻印 アール・ブリュット再考展、  
「障がい者アーティストの卵」発掘展  
（ともに障がい福祉課主催）



9 内容

(特徴ある作品)

デジタルアート作品

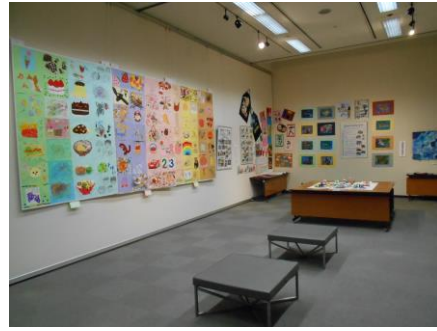


エコ作品





(アート展の様子)



## 10 来場者アンケート

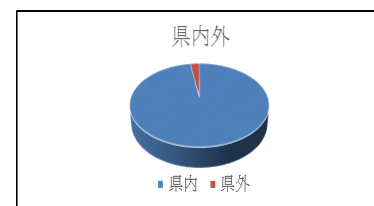
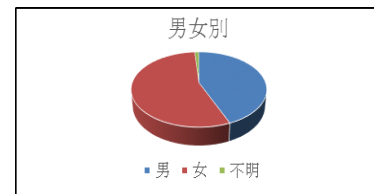
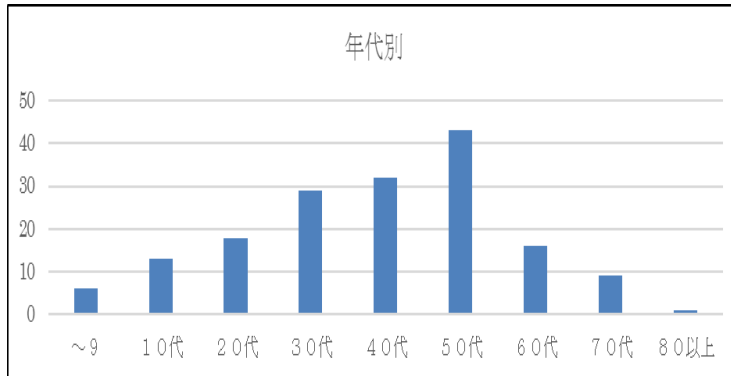
### 【調査概要】

期間：平成30年2月28日（水）から3月4日（日）まで

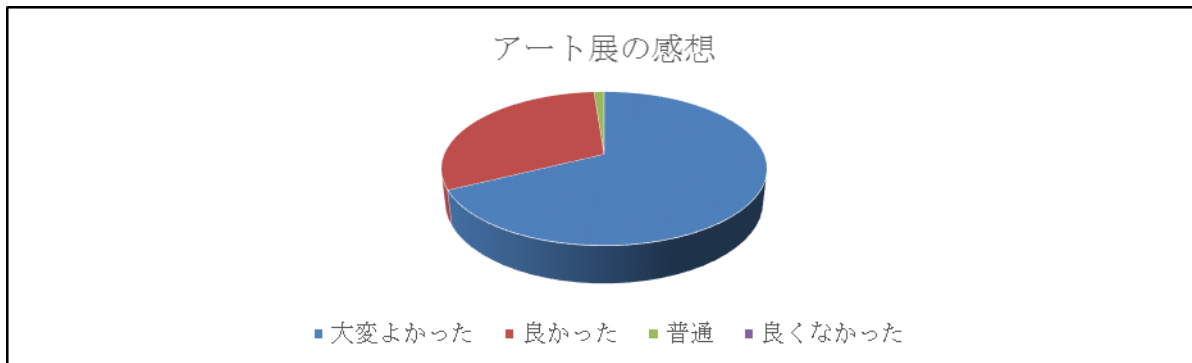
場所：県立21世紀館 多目的活動室（アート展会場内）

回答者数：167名

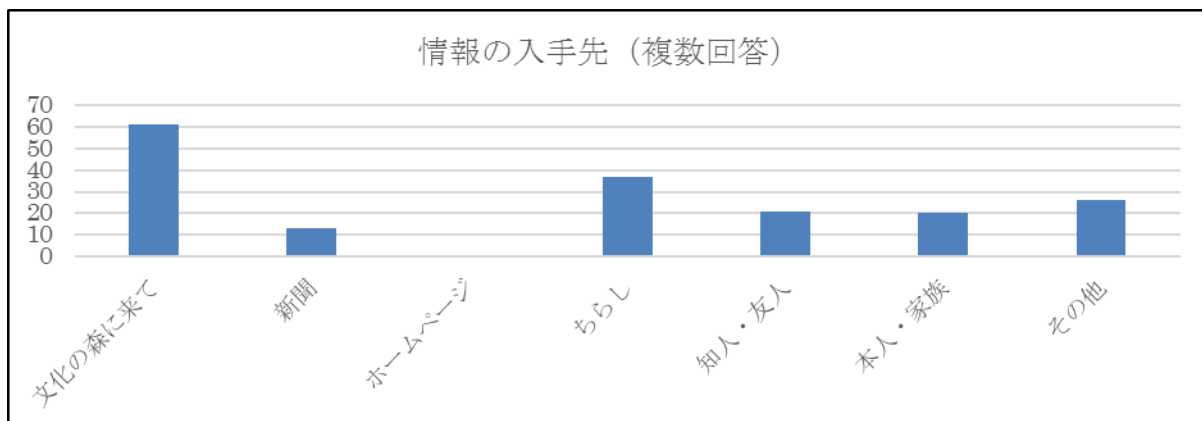
### ○回答者の属性



### ○「きらめきアート展」の感想



### ○アート展の情報入手方法



## 1 1 来場者からの意見等

(改善点を含む 意見等)

- ・高い位置の展示がある。車イス目線もあるので、できるかぎり作品を低く展示した方がよい。
- ・多くの人に見ていただきたい。(テレビ・新聞でもっと PR を)
- ・もっと大きな会場で。
- ・音のプレゼンもあればよい。
- ・会期が長いとよい。
- ・図録のように、残る資料もあるとよい。
- ・作品を制作するまでの経緯をもう少し知りたい。
- ・継続していかれることを希望。

(感想等)

- ・それぞれの支援学校で、特色ある取り組みや熱心に取り組まれている様子がよくわかった。
- ・すばらしい作品が多くて、とても感動した。
- ・個々の作品が発想力が豊かで驚かされた。参考になった。
- ・どの作品にも子どもたちの個性があふれている。
- ・3Dアートから裁縫・デザインまであり、すてき。
- ・触れて楽しむことができる展示がとてもおもしろかった。
- ・それぞれの特別支援学校で熱心に取り組まれている様子がよくわかった。一人ひとりの発達に合わせて、指導されている。今後ともがんばっていただきたい。
- ・このような芸術活動は大変重要。今後ますますの発展を望む。

## 1 2 成果と課題

(成果)

県内全ての特別支援学校が参加し、588点の特色あふれる作品により、アート展を開催することができたことは、学校関係者をはじめ多くの方々に喜んでいただき、広く一般の県民の方々にも特別支援学校の取り組みを知っていただくよい機会となった。また、障がい福祉課主催のアート展との同時開催により、多くの来場者を得ることができた。

(課題)

冬場のアート展開催にあたり、肢体不自由や重度の障がいのある児童生徒にとっては、体調面等からなかなか見学にいけないとの声がある。今後、特別支援学校の児童生徒が互いに作品を見ることができる機会として、Webを使用して作品を鑑賞できる方策を検討したい。

## 成果と課題

本県の特別支援学校におけるスポーツ活動と芸術・文化活動の振興を図るため、本事業を実施した。

スポーツ活動では、国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校「体育・スポーツ」実践指導者協議会」による指導者の養成及び徳島県障がい者スポーツ協会の協力のもと、県内各特別支援学校教員への伝達講習を開催することで、各学校におけるボッチャ実施に向けた足がかりを築いた。核特別支援学校においては、協会からの指導者派遣や道具の貸し出しを活用しながら、既存の道具を活用するなど、児童生徒の特性に応じた工夫を加えながら、ボッチャの実践が始まったところである。

また、芸術・文化活動においては、児童生徒の新たな才能の開花と地域へのさらなる理解啓発のために、特別支援学校の力を一同に結集したアート展を開催するとともに、四国霊場札所におけるお接待活動を新たに実施し、その中で児童生徒の作品展示・配付による啓発活動を実施した。こうした取組の結果、各特別支援学校における特色ある取組を広く発信することができ、アート展ではデジタルアート専門家との連携による作品をはじめ、身近な素材を活用した作品など児童生徒の個性豊かで心温まる表現に対する賞賛や、次年度の継続開催を期待する声が多く寄せられた。また、手作り作品によるお接待では巡礼者から感謝の声が聞かれた。

課題としては、スポーツ活動振興のために、ボッチャの指導者養成や道具の準備等の環境整備に努めるとともに、活動を広げるために、地域との交流におけるスポーツ活動を促進していく必要がある。また、芸術・文化活動においても、各特別支援学校が専門家や地域と連携して、児童生徒の表現活動をより豊かなものにし、広く一般の方々に取り組みを発信できるよう、展示の工夫やさまざまな機会を活用することが大切である。

特別支援学校が、地域とともにスポーツと芸術・文化の活動を進められるよう、今後も各方面との連携を深め、障がい理解の啓発や、心のバリアフリーの推進に取り組んでまいりたい。

平成29年度 スポーツ庁委託事業  
「Special プロジェクト 2020 体制整備事業」

徳島県「Special プロジェクト 2020」体制整備事業  
2018年3月31日発行

徳島県教育委員会特別支援教育課